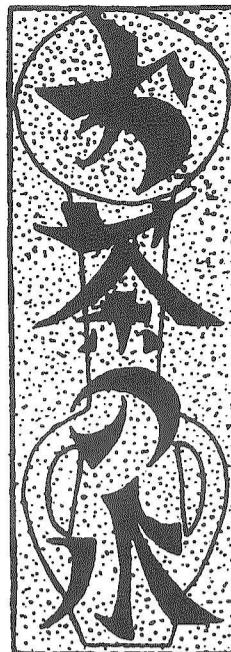


祝 本校創立120周年

～記念行事を振り返る～



発行所
お茶の水女子大学付属
高等学校新聞部
文京区大塚2-1-1
(5978) 5856

目次	
1面	120周年記念式典 卒業生からのメッセージ
2面	記念音楽会&祝賀会・記念展示 ミニインタビュー・在校生アンケート エピローグ

去る十一月二十三日、徽音堂にて創立百

二十周年記念式典が挙行され、多くの卒業生が訪れた。百二十年の時を歩んできたお茶高に寄せる思いは様々だ。

学校長式辞

鷹野光行先生

本校は一八八二(明治十五)年七月に東京女子師範学校附属高等女学校として設置されました。その後、所属する高等師範学校の名称等の変化によって何回か名前を変えましたが、長く「お茶の水の女学校」と通称されてきて、戦後は新制大学・高校の発足とともに、「お茶の水女子大学文教部」も附属高等学校となり、そして一九八〇(昭和五十五)年からは附属学校部の発足によりお茶の水女子大学附属高等学校となって現在に至り、一貫して女子の後期中等教育を担つてきました。新制高等学校との教育理念として大切にしてきたのは、「自由」「自主」「自律」であり、例えば本校の伝統行事であるダンスコンクールや文化祭・体育祭などの学校行事もほとんど生徒たち自身によって企画され運営されてきました。これらの理念と伝統のもとに、特設科目も設置する通常の教育活動つてある農場実習などによつて、学力の測定だけでは

到底測り得ないであろう生きるための実力を蓄えた多くの人材を輩出してきたことは言うまでもありません。

二十年前に創立百周年の記念事業を持ちました。その後の二十年間のいくつかの変化を上げますと、まず年一回の公開研究会がもたれるようになりました。そしてその成果を引き続き発刊し、とくに近年はいわゆる高大連携に力を入れて特設科目などに大学から教官を招いての授業がおこなわれ、いくつかの大学の授業を高校生が受講する試みも上がり、さらに発展することが期待されています。国際交流の面でも、毎年二・三名の留学生が本校で学ぶようになり、平成八年からは在日外国人の子女も受け入れてきております。

周年ごとにこのような記念の会を催すそれによつてこれまでを振り返るのは、振り返つた過去に何かを見いだし、人の子女も受け入れてきておりまます。

周年ごとにこのように

の会を催すそれによつてこれ

までを振り返るのは、振り返つた過去に何かを見いだし、人の子女も受け入れてきておりまます。

周年ごとにこのように

の会を催すそれによつてこれ

までを振り返るのは、振り返つた過去に何かを見いだし、

ハーブ演奏

記念音楽会・祝賀会

記念式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研鑽を積まれ、日本人として初めてのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケストラや日本国内の主要なオーケストラと協演を重ね、正に世界各地で活躍されている方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァイオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティレーション～煌めき～」まで。

▼恒例？の2人の演奏。



での六曲、ジャンルの違う曲で、微音堂全体を魅了した。最後にお一人でパッヘルベン作曲の「カノン」を演奏された後、アンコールに答えて、もう一曲演奏して下さるなど、百二十周年を祝うのに相応しい、素晴らしいコンサートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

そこで、祝賀会でそれぞれの出来事で、賑やかに催された。そこで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになったと思う。

＊原先生 お見えになつた多彩な方々から今回の行事を評価して頂けたのも嬉しかったわ。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研

鑽を積まれ、日本人として初めてのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケストラや日本国内の主要なオーケ

ストラと協演を重ね、正に世

界各地で活躍している方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァイオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティ

レーション～煌めき～」ま

で、百二十周年を祝うのに相応しい、素晴らしいコンサートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになったと思う。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研

鑽を積まれ、日本人として初めのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハ

ープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケスト

ラや日本国内の主要なオーケ

ストラと協演を重ね、正に世

界各地で活躍している方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァ

イオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティ

レーション～煌めき～」ま

で、百二十周年を祝うのに相

応しい、素晴らしいコンサ

ートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになつたと思う。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研

鑽を積まれ、日本人として初めのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハ

ープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケスト

ラや日本国内の主要なオーケ

ストラと協演を重ね、正に世

界各地で活躍している方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァ

イオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティ

レーション～煌めき～」ま

で、百二十周年を祝うのに相

応しい、素晴らしいコンサ

ートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになつたと思う。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研

鑽を積まれ、日本人として初めのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハ

ープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケスト

ラや日本国内の主要なオーケ

ストラと協演を重ね、正に世

界各地で活躍している方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァ

イオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティ

レーション～煌めき～」ま

で、百二十周年を祝うのに相

応しい、素晴らしいコンサ

ートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになつたと思う。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハープ演奏が行われた。

吉野篤子さんは、昭和二十一年（一九四九年）にお茶高を卒業された後、東京女子大学英文学科を経て、東京芸術大学音楽学部でハープを専攻し、同専攻科を修了。その後も研

鑽を積まれ、日本人として初めのソロリサイタルを開催するなど、日本におけるハ

ープ奏者の草分け的存在と言われている。また、娘の直子さんは、国際的なコンクールで賞を獲得していることはもちろん、欧米の一流オーケスト

ラや日本国内の主要なオーケ

ストラと協演を重ね、正に世

界各地で活躍している方だ。

音楽会は、J.S.バッハ作曲の「プレリュード（ヴァ

イオリン・パンティーハ第3番より）」のデュオで始まつた。中盤は吉野直子さんのソロで、A.d.eカベソンの「バヴァンヌと変奏」からC.サルツェードの「シンティ

レーション～煌めき～」ま

で、百二十周年を祝うのに相

応しい、素晴らしいコンサ

ートだった。

祝賀会が、立食パーティーや前音楽科教官の中嶋先生のテノール独唱、先生方の楽器演奏などで、祝賀会でそれぞれの得意な楽器や男性合唱を披露

かそうでは、ピアノ伴奏の出来事で、賑やかに催された。

原先生がすさまじい速度で始めて、引っ張りこまれてしまつたが、プロの方に誉めてもらって嬉しかった。八十五%

の出来事。

＊村野先生 初めて緊張したが、音楽に造詣の深い方々と一緒に歌えて、気持ち良かった。

＊原先生 大活躍♪ 三年生の有志は、修学旅行先の沖縄で習い、練習を重ねたエイサー（太鼓を使う沖縄の踊り）を披露した。

＊原先生 本日の感想をどうぞ。

A. 記念行事の準備は大変だったけれど、式典も祝賀会も展示も、とても良いものになつたと思う。

＊原先生 あの頃、実はこの学校が嫌いだったのよ。お茶高時代の思い出を聞かせてください。

A. 互いに感想を伺つた。お茶高は古い校舎だけど、その中に温かさがあるということを伝えられた。

＊原先生 フルート独奏の「踊りあ

く」、式典の後、記念音楽会が催され、お茶高の卒業生である吉野篤子さんと、その娘の直子さんのハ